

## 令和6年度第1回神奈川県鳥獣総合対策協議会 サル対策専門部会

開催日時 令和7年3月11日(火)10時00分から11時50分まで  
開催場所 ZoomによるWEB会議  
出席者 ◎小池 伸介、広谷 浩子、三谷 奈保、安富 舞、小島 望、板倉 孝明(臼井委員の代理)、山下 博規、瀬戸 太一郎、小倉 友貴(岡部委員の代理)、笠原 正則、鈴木 幹太(高杉委員の代理)、○中原 正貴、鈴木 彪河(神戸委員の代理)、岩見谷 真志(齋藤委員の代理)  
(◎部会長、○副部会長)  
委員 15人中14人出席(過半数)により会議は成立

会議の経過は次のとおりです。

### 1 開会

自然環境保全課 野生生物グループ 小川グループリーダー

### 2 あいさつ

自然環境保全課 羽太課長

### 3 議題(令和7年度ニホンザル管理事業実施計画(案)について)

(資料1に基づき、事務局より説明)

(以下、質疑応答)

○委員1:川弟B1群の目標頭数を50頭から40頭にする理由が、農業被害が減らないため、管理しやすい頭数として40頭にするということだと思いましたが、経緯をもう少し詳しく教えていただけますか。

○事務局:本県のニホンザル管理計画では、サルの群れは30頭から60頭が分裂せず管理がしやすい規模であるとしており、それを基に群れごとにコントロールをしています。川弟B1群は、これまでの目標頭数である50頭になっても被害が思ったようには減らず、群れ管理計画上でも妥当な数字でもある40頭へ目標頭数を設定し直しています。現場の状況に関し、委員2がお詳しいと思いますので、補完いただけますでしょうか。

- 委員 2：川弟 B1 群は現在 50 頭程度で、宮ヶ瀬湖の北岸の道路沿いに出没が多く、追い払いを行ってもすぐ散ってしまい、群れとしてのまとまりが緩くなっているように感じます。もう少し規模を小さくした方が地域としても管理がしやすいということで、地域の方々と県との相談で 40 頭目標としてシミュレーションを作成しています。
- 事務局：群れの集まりが緩くなっているのは大きな課題で、川弟という名前の付く群れはこれまで分裂を繰り返してきたことを踏まえ、分裂しないように規模を小さくする、という考えです。
- 委員 1：管理がしやすいから目標頭数を 40 頭にする、という事をざっくりとした感じで通してしまうと、他の群れも目標頭数を 40 頭、30 頭に、という方向になってしまうのではと危惧しています。40 頭が妥当か、また、群れが散って追い払いの効果が低くなる原因等、目標頭数を 10 頭減らす妥当性等が分かりづらいです。  
フィードバック管理とも言いますが、現状がダメだったらもう少し減らしてみようというどんぶり勘定のような鳥獣管理に不信感があり、中身をもう少し詳細に教えていただけないですか。
- 事務局：本県では群れごとに性年齢構成を踏まえて個体数のシミュレーションを行っており、その上で、40 頭規模で今後の捕獲もしっかりコントロールしていけば分裂はないだろうと判断したもので、妥当性はあると考えています。実際に目標頭数 40 頭で取り組んでみて、今後の被害の状況や分裂動向といったものを注視しながら、来年度以降の計画に反映していくという形になります。状況が急変すれば、年度の途中での計画の変更協議という可能性もあります。
- 委員 3：委員 1 が懸念されているのは、以前のように目標頭数をどんどん減らしていく、数合わせのような状況になってしまうのではという事だと思いますので、参考資料 2 の群れごとの計画を基に、捕獲だけではない旨を説明していただけますか。
- 事務局：参考資料 2、群れごとの計画を基に説明します。川弟 B 1 群は、相模原市と愛川町で被害が発生しており、特に相模原市で被害が拡大しつつあると認識しています。主な課題としては、相模原市では箱わなの設置困難や宮ヶ瀬ダム周辺の観光施設等での餌付け、愛川町では分裂が危惧される旨や、観光施設等での餌付け、清川村でも同じように餌付けが主な課題として出されている通り、地域の性質上、県外からの観光客が多く餌付けが発生しやすい状況です。そこで、餌付け対策も当然行いますが、群れの積極的な管理、個体数調整も併せて行っていくという形です。具体的には計画の後半に記載してある通り、被害防除対策としては集落環境整備、放棄果樹除去の啓発や、侵入防止柵の整備等も

引き続き行っていきますし、餌付けに関する状況把握と周知も他群も含めて、全体的に実施していくという考えです。このように、地域としては色々な取組をしているのですが、どうしても観光施設がたくさんあり餌付けが収まりづらい性質を踏まえ、目標棟数の 10 頭減という形になったという経緯です。

○委員 3：はい、ありがとうございます。委員 1、大丈夫でしょうか。

○委員 1：大丈夫ではありません。どうしてこのような聞き方をしたかという、目標頭数を 50 頭から 40 頭にするという理由が色々書かれていますが、他の群れに対しても同じようなことをしていますし、最後に言及のあった観光客による餌付けというのが、結構、私は、この川弟 B 1 群でずっと話があるように、原因として大きいのではないかと考えています。私はここ 10 数年ぐらい餌付けのことに特化して研究しているので、なんとなくここが怪しいと思いますが、餌付けは観光施設があるから、というのは言い訳でしかなく、それならなんとかしなければいけないのでは、というのが、ここでやることだと思います。

目標頭数については、増えているから、管理しにくいから減らす、というなら、他の群れも全部そうになってしまうので、原因をしっかりと検討し、それを潰していくのが、科学的な管理だと思います。それができていないのに数だけ減らすというのは、30 頭から 60 頭の規模と言っていましたが、それならもう全部の群れが 30 頭になってしまうのではと危惧しています。観光客の餌付けの影響があるという風に県側も認識しているなら、何故もっと早くやらないのかと思います。

今回の餌付け対策のポスターにも後でつながると思いますが、委員の方も含め、もっと強い表現で断固としてという姿勢が見られない。私は自分の研究を踏まえると皆様餌付けについて甘く見ているのではないか、もう少ししっかりと共通認識にしてほしいです。

○委員 3：ありがとうございます。餌付けの話はまた最後にあると思いますので、この件は後でも含めてということでもよろしいですか。

○委員 1：はい。最後に言っておきたいのですが、管理しやすいから 40 頭や 30 頭にするというのは理由として使って欲しくありません。そう表現されるとどんぶり勘定にしか聞こえなくなるので、原因をもう少ししっかりと追求して、先程の委員 2 の説明のように、もう少し具体的に資料等に入れてもらえたらと思います。このままだと川弟 B 1 群も他の群れもあまり変わらないように見えるので、特徴をしっかりとバックグラウンドにして、こうだからこうしますという記載にしてほしいです。

○委員 3：はい、ありがとうございます。この件については、目標頭数を 40 頭にした効果をしっかりとして次年度以降に検証することによって、問題が解決できたのかを次年度報告

いただくということにしたいと思います。  
それでは、引き続き説明をお願いいたします。

**(資料 2 に基づき、事務局より説明 (令和 6 年度の事業実施状況))**

**(以下、質疑応答)**

- 委員 3 : はい。説明ありがとうございます。では、実施計画の前半、令和 6 年度分の内容に関しまして質疑ありましたらお願いします。
  
- 委員 1 : 資料 2 の 6 ページの表 1 に学習放獣という記載がありますが、学習放獣をした後でのその効果で何がどう変化した等、そういった検証が行われているのかどうかをお伺いしたいです。
  
- 事務局 : こちらは学習放獣を目的にやっているものではなく、まず個体数調整を行うための捕獲であって、捕獲したが捕獲計画数を超過している個体や捕獲を行う計画のなかった群れは学習放獣を行う、という扱いで、積極的に学習放獣という事業として実施するものではないため、単体としての効果検証は行っていないという現状です。
  
- 委員 1 : 確認させていただきたいのですが、学習放獣と名付けているのですから、何かお仕置きのようなことをするわけですね。その中身を教えてもらっていいですか。単なる個体数調整で捕獲して逃がしたものを、学習放獣と記載しているわけじゃないですね。
  
- 事務局 : 捕獲を行った市町村の方で、大きな音等を使って、あるいは試行的に嫌な匂いを嗅がせるようなことも聞いたことありますが、痛い目に合わせた後に畑地や人家から離れた場所に放すということを実施していると伺っています。
  
- 委員 1 : 委員 2 に伺いたいのですが、市町村のお仕置きがばらばらで、もったいないと思っています。学習放獣は昔クマ等でよくやられたことがあったと思うのですが、今はほとんどやられていないようです。個体数調整ではなく、お仕置きで何らかの効果があるならば、ものすごく良いことだと思います。だからこういう方法ならこういう効果が出た等、現場の目で傾向や考察のようなものでも聞かせていただければと思いますが、いかがでしょうか。

○委員 2：今現在の学習放獣をどの群れ、どの個体にどういう形でやったというのは、私も詳細を知らないのですが、今委員 1 のおっしゃった事は、詳細をお聞きしてからであればその後の群れの動きについての考察はできるかなと思います。

○委員 3：事務局の方で、分かっていることがあればお願いします。

○事務局：より現場に近い取組をしているかながわ鳥獣被害支援センターから、学習放獣の方法等、あるいはどれだけ効果があったか等、もしわかれば伺えますでしょうか。

○事務局（かながわ鳥獣被害対策支援センター）：全ての個体を学習放獣しているわけではなくて、入った個体が、人が近づいただけで怯えているようであれば、それだけで人に対して恐怖感を抱いている状態ですので放獣しますし、一方、威嚇や向かってくるような素振りを見せるような個体は、市町村によって方法は違いますが、爆竹を中に放り込む、罠を揺らす、パチンコを使う等で人を見たら怯えるような状態にしてから放獣するようにお願いしています。

ただ、実際の放獣作業は市町村のそれぞれの状況や個体の状態によって違うと思いますので、その時の状態に合わせてやられているのかなと思います。それに対して効果がどれくらいあったかというのは、正直追い切れていないというのが現状です。

○委員 3：委員 1、よろしいですか。

○委員 1：では希望ですが、せっきやく個体識別もできているのなら、県としてこの群れではこうしましょう等という風に、お仕置きの方法を統一させて、放獣してからの様子は現場に近い人だったら追えるはずなので、効果を把握できると思います。せっきやく効果がある程度把握できるのに、何もしてないというのはちょっともったいないので、方法を統一させて、識別している個体については様子を見るというのをやっていただければ今後のサル管理に非常に役立つと思うので、検討をお願いします。

○事務局（かながわ鳥獣被害対策支援センター）：学習放獣する個体の識別は、ほぼ行われていません。何かの特徴があって識別できている個体もいますが、特に識別標識を付けた等には行っていませんので、群れに戻ってしまったら同じ個体を追うのは難しい、というのが現状です。

○事務局：今お話のあった通り、いわゆる加害個体として認定されたものは識別していますが、全ての個体の識別は行っていません。

一方、委員 1 のおっしゃっている通り、怖がらせる方法については各市町村でばらばら

な状況で、底上げできるポテンシャル、伸びしろがある部分だと思しますので、今後、学習放獣のみならず各地域の被害対策の方法について、底上げを図っていきたいという考えを県でも持っております。その1つとして、来年度の計画として人材育成等も考えていますので、できればここから来年度の計画の説明をさせていただきたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

○委員1：わかりました。委員2も含めて、小さな群れなら識別しやすいと思しますので、そういう群れをモデルケースにして学習放獣の今後に繋がるような研究等を検討していただきたいと思っております。

○委員3：はい、ありがとうございます。まず情報が集計もされてないと思しますので、県の仕事が増えてしまうかもしれませんが、今までの事例を集めていただいた上で作業いただくということかと思っております。

また、今のお話聞く限り、この6ページの表1の学習放獣の「学習」は取った方がいいのではないのでしょうか。やはり「学習」と書いてあるから何か効果があるように思っておりますので、検討いただければと思っております。

**(資料2に基づき、事務局より説明(令和7年度の事業実施計画))**

**(質疑応答：なし)**

**(参考資料3に基づき、事務局より説明)**

**(以下、質疑応答)**

○委員1：これはポスターというよりも、配布用のパンフレットのようなものとしての位置付けと考えていいのですか。ポスターというと目立つところに貼っていくものという認識ですが、今回は配布するものとして、観光施設等に配ったりするという前提と認識していいのでしょうか。

○事務局：こちらは両方行う考えであり、具体的にはプリントしたA4版の配布しやすいものと、より大きく、A3版等に大きくカラープリントしたものをデータ版と一緒に各地域に配っていただいて、貼ることと配ることを両方やっていただく方向で計画しております。

○委員1：ありがとうございます。意見書にも書いたのですが、ポスターは目についた時に心理的にショッキングで目を引くようでない駄目だと思っています。なので、説明っぽいのはポスターとしてはあまりよろしくありません。配布資料として読んでくださいと言って渡すのならいいのですが、ポスターとしてはちょっとくどすぎるといいます。

そこで「サルにエサをあげないで」というより「今与えてるのは、エサではなくて死だ」くらいのインパクトがある文でない、効果はなかなか出ないのではないかと思います。少なくとも、餌をあげることがいいこと、悪くないと思っている観光客に対してですから、逆なんだよ、というところから入らないと、文章も読んでもらえないのではと思います。どこの観光地でもそういう風に言っているよね、という程度になってしまうので、ポスター配布の目的から考えると、そこまで踏み込まないといけないと思います。

3月というともう時間がないので、試験的に、ということなら尚更、今までであるようなものでなく、もう少し踏み込んだものをお願いしたいです。

○委員3：委員1、それはご意見ということでよろしいですか。

○委員1：はい。委員3の意見も伺いたいです。

○委員3：もちろんポスターとチラシで目的が違うので、本来であれば変えた方がいいというのはそれもお意見かと思います。

一方で、私個人としては、最初に委員1がおっしゃったように、早くやった方がいいということが大事だと思っています。

もう、この検討は1年経ってしまっているのですよね。やってみて効果なければまた変えるというのもあると思いますので、また細かい議論をするよりは、早く動いた方がいいのではないかと個人的には思います。

皆様から様々な意見があり、これら全てを反映させるのは無理だと思いますが、その中でもかなり対応されていると思いますので、またこれを修正するというよりは、事務局からあったように、まずはこれを配布してみる、それで効果がなければ改訂版のポスターなりチラシをしっかりと作る。しっかりと作るというのは、しっかりとデザイナーに委託する等という形で作るという方向に移らないと、いつまでたってもこの議論で回ってしまいかないというのが個人的な意見です。

○委員1：ありがとうございます。

○委員3：はい。他の方でご意見等ありますか。

○委員 2：今日、委員 1 がいらっしゃるので、補足なのですが、来年度も相模原の追い払いと、厚木の追い払いの業務を、恐らく担当すると思いますので、今、市役所等と相談しているところです。今はチラシを巡回中に持ったり、あと、実際「サルの追い払い中」のような表示のベストを着て回ったりしているのですが、次年度以降は特に、観光地ですと県立あいかわ公園、鳥居原ふれあいの家や、宮ヶ瀬湖の北岸道路を回るときに「サル餌付け監視中」のようなマグネットを自動車のフロントに大きく貼って回った方がいいのではというお話をしています。そういった取組も合わせて、次年度は市の方と協力して実施していけたらなと考えています。

○委員 3：はい、ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

○事務局（羽太課長）：では、羽太から一言いいですか。

本当に、委員 3 初め、このポスターについては皆様の思いが詰まったものだと思います。今回はポスターとチラシを兼ねたものになっていますが、この辺は追って、その目的に合わせて、出た結果を踏まえて分けていけたらと思います。

委員 2 から話があったように、これから地域でも餌付けの対策をしっかりやっていこうという気運に差し掛かっておりますので、委員 3 が言われたように、今回もこのチラシ、ポスターに関しては、この現状でまずは走らせていただきたいなと思います。

今回、詳細に皆様からのご意見を可能な限り反映したものとなっておりますので、これを実際に現場で活用して、施設の指定管理者も含め様々な声を拾って、そしてさらにまた機会があれば皆様に叩いていただいて、より良いものにしていききたいと思います。今回はこちらで一度完成とさせていただいて、まず一旦その地域に降ろすという形で進めさせていただければと考えております。どうかよろしく願いいたします。

○委員 3：はい、ありがとうございます。それに併せて、やはりモニタリング事業の一環ということで、今回、これをどこに配布・設置するかは事務局の方で検討いただければと思いますけれども、同時に、設置することで本当に餌付けが減ったかどうか、いわゆる効果測定をしっかりとさせていただきたいです。

なかなかチラシで効果測定は難しいかもしれませんが、見直すなら早く動き出した方がいいと思いますので、どうやって評価していくかも事前に考えて実施していただければと思います。

他はいかがでしょうか。このチラシ、ポスター及び今後のスケジュールについて何かありましたらお願いします。

○委員 4：最初にチラシの案をもらった時に色々と言ってしまったのですが、改定案はとて

もわかりやすくなっているのでもいいかと思います。真ん中の部分の詳しい説明は、もしポスター的に使うのならほとんど必要なくて、上の部分のイラストと文字で大体のことが網羅されていると思います。

それと、では何をしたらいいのか、というところもしっかり「近づかず遠くから見守りましょう」「エサやりは絶対ダメで、通報を」等が書いてありますので、まずはこのチラシを進めていただくと良いのではないかと思います。

○委員3：はい、ありがとうございます。それこそ本当に、例えば県立あいかわ公園等で配布してみて、一般の人がどう感じるかのアンケート等をどこかのタイミングでやってみるのもありかなと思いますので、ご検討ください。

では、事務局から話があったように、このポスターに関する意見については、ここで難しければ今週中ぐらいにお寄せいただき、期間を区切って進めていただければと思います。

はい。他に何か。今日の議題全般でありますか。

○委員2：1点だけいいでしょうか。最初に委員1が言われたところに、私も今日の資料を見て思ったのですが、私や委員4等は他の検討委員会にも出ているので状況が分かっていると思うのですが、今日の議論のポイントが字だけで説明してあるので、委員1があいまいな疑問を持たれたと思います。

例えば群れ管理の方向性という時に、サルというのは行動域があって、行動域がどこにどういう形で隣接群と影響して今こういう管理になっている、というところ説明がないと、あまい疑問を持たれるかと思いますが、ちょっと事務局の方には、お手数かもしれませんが、委員1にその辺り、後ほど補足して、川弟シリーズの今の状況等ご説明いただいた方がいいかなと思います。

○委員3：はい、ありがとうございます。そうですね、私も確かに字だけ見ってしまうと、目標個体数の数字優先になってしまうのですが、一方で、事務局から説明いただいた参考資料2ですね。これは昨年、非常に膨大な仕事なのですが、群れごとの被害を全部出してもらおうということをやっていますので、この辺をうまく活用して、川弟B1群はやるべき対策はやっている一方、餌付けの問題もある中で、やはりかなり集中して管理しなければならず、どうしても目標個体の変更が伴うというあたりを説明いただければと思います。

そして、こういう特定の群れを検討する時は参考資料2の中の情報をもうちょっと見やすい形で示すことによって、委員1が言われたような疑問というのは大分解消するのではと思いますので、次年度以降、検討いただければと思います。

はい。他、いかがでしょうか。はい。ではなければ、本日はこの程度、程度にしたいと思います。

○委員 3：それでは、本日、委員の皆様から様々なご意見をいただきましたので、これらの意見を踏まえてニホンザル管理の取り組みを進めていきたいと思ひます。

では、事務局にお返しいたします。

○事務局（羽太課長）：皆様、長時間にわたって本当に忌憚のないご意見をいただきありがとうございますございました。

特に冒頭、委員 1 から目標個体数が行き当たりばったりという厳しいご指摘を、また最後に委員 2 と委員 3 から資料をもう少し分かりやすくというご意見をいただき、説明のまずさや表現の粗さがあったと反省しております。

改めて、サル管理というのは社会を、また予測不能な自然を相手にしていますので、完璧にやるのは非常に難しいものです。その中で本県のサル管理は、皆様と一緒に色々なことを試行錯誤して、経験や記録を積み上げて、その都度現時点で考える限りの最善の選択をしてきているものと認識しています。

現在の知見は限られたものですが、その中でやる必要があつて、かつ実行可能なこと、ここは大事で、地域のマンパワーの限界もあれば、県の体力も皆様からいただけるお時間ももちろん限られている中で、実行可能なことを順次やっていくという状況で、都度、反省があり、改善点が出てくるものと承知しています。今後、群れ単位できめ細かく情報を記録、参照しながら判断することは、引き続き続けて行かねばならないと思ひています。

最後の方で議論がありました餌付けに関して、今回ポスターを掲出、配布するということを初めてやってみて、現場に職員が張り付いてその効果を見ることはまず不可能ですが、委員 3 が最後に言われたように、地域でどんなふうに応答があるのかというのは、実現可能なやり方で把握できるようにしたいと思ひます。餌付けについては非常に重要な課題として認識しておりますので、各施設の指定管理者にも働きかけ、指定管理者を通した来園者等への働きかけもできるだけ強めていき、その中で皆様にたくさんご意見をいただきながら作り上げたポスターも活用していきたいと思ひます。

サル管理というのは、数ある野生動物管理の中でもとりわけ難しいものという風に認識しております。それを、引き続き皆様にご指導とご助言をいただきながら進めていきたいと思ひていますので、今後とも何卒よろしくお願ひします。

本日は本当にありがとうございました。

○事務局：はい、それでは、以上を持ちまして本日のサル対策専門部会を閉会させていただきます。ありがとうございました。